多賀城民報

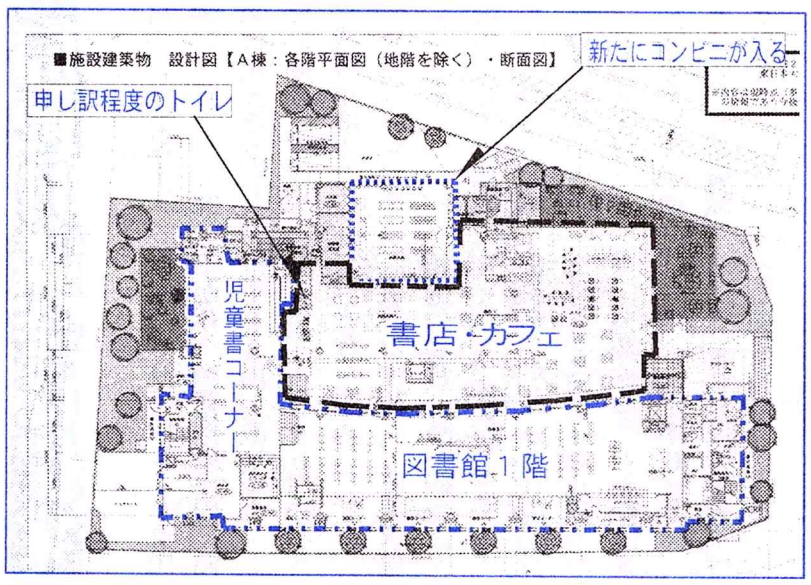
第985号
2014年11月7日

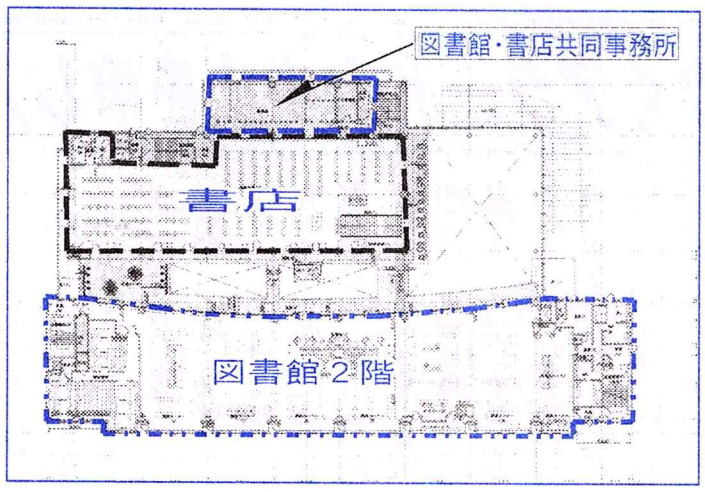
日本共産党
多賀城市議団・編集長柳原清
多賀城市留ケ谷一丁目11番23号
代表(364)3222
FAX(309)3910

商業施設と図書館の事務所が一緒？

10/31 市、東日本大震災調査特別委員会で駅北ビル・図書館について説明

10月31日午後、東日本大震災調査特別委員会が開かれ、駅北ビルの建設事業費は約10億円増の62億54百万円になる見込みであること、商業スペースが減り図書館と共用部分が増えること等説明されました。党市議団の質疑で問題が浮き彫りになりました。





ビル建設事業費、52億円から62億円に。

安倍政権の国土強靱化計画等により建築資材と人件費の高騰が本市にも影響、「駅北ビル（A棟・B棟）建設事業費は52億37百万円から62億54百万円に約10億円の支出増となる見込み」との説明がありました。

A棟にコンビニ入店・A棟商業スペースのトイレは申し訳程度

また「前回説明からの設計上の大きな変更点は、A棟にコンビニが入ることになったこと、同一階にトイレを設置したこと」等の説明がありました。

藤原市議は「トイレを設置するというが、最も客が集中するであろう一階に、なぜ女子用は2基、男子用は大小用各1基なのか。市の一日の想定来客数は三千人。これでは商店の客が図書館のトイレに殺到する。図書館のトイレ部分は共用にすべきではないか」と質しました。

建設部長は「商業スペースと図書館は開設時間が違うのでそれはできない」と回答。藤原市議が「それならなおさらのこと商業スペースのトイレは拡大する必要がある」と質しましたが、部長は「一階から三階まで合わせると基準を満たしている」と強弁しました。

図書館の事務所は三階に50平方メートル程度。休憩所も無し

次に藤原市議は図書館の事務所の問題をとりあげました。図書館スペースには一～二階に事務所はなく三階に約50平方メートルがあるだけです。職員の休憩所もありません。藤原市議が「こんなせまい事務室で間に合うはずがない」と質すと、武者生涯学習課長は「確かに前の図書館からすると数分の一だが一階の倉庫なども使うので十分」と強弁しました。

商業施設の専用事務所は無し！書店・図書館が事務室を共用。

商業用事務室はどうか。以前の設計では専用の事務室がありましたが、消え、二階の書店北側に大きな共用事務室が…。藤原市議が「この事務室は誰と誰の共用なのか」と質すと武者課長は「商業用事務所と指定管理業務の共用」と回答。「指定管理業務」とは図書館業務のことで、図書館から離れた場所で事務を行うということです。それで設計者は図書館の事務室は狭くても良いと考えたようです。

これは大変な問題です。

第一に、図書館の業務が図書館スペース内で完結できないことを意味しており、図書館としては全く非効率な仕事にならざるをえません。

第二に、蔦屋書店の親会社であるCCCの図書館カンパニー社長の高橋聡氏は「本当のことを言うと（図書館は）永続性が担保されるから行政がやったほうがよい」「指定管理を受けた後行政にもどすこともありうる」という趣旨の発言をしています（本年3月13日の講演）。もし撤退があった場合、図書館スペースだけでは仕事が完結しないのですから致命的な設計と言わざるを得ません。

第三に、市は「図書館と書店は明確に分ける」と答弁してきましたがそれに反します。

市教委、答弁不能に

当局はこれらの質問にまともに答えられず竹谷英昭委員長から「後できちんと答弁するように」と指示されました。

◇弁護士による
法律相談
◇申込
電話で予約して下さい。
◇電話
364-3222
◇相談日
11月14日（金）
11月25日（火）
◇時間
午後1:30～
◇場所
旧阿部福商店となり塩釜県民の会事務所

◇議員による
暮しの相談
電　話
藤原益栄議員
368-6623
070-6497-6623
佐藤恵子議員
367-0182
090-2027-9884
柳原きよし議員
368-1883
090-2605-4984
戸津川はるみ議員
090-7528-2075

東風城月

四年ぶりの「赤旗まつり」バスツアーに参加した。二日朝7時に多賀城駅発、午後1時前に会場である江東区夢の島に着いた。出迎えたのは右翼の大音量と笑顔の要員のみなさん▼会場内はひとひとひと…。確か四回目の参加だがこれほどの人出は見たことがない。トイレはすべて20～30メートルの列。「昼からビールが飲めるぞ…」などと思っていたが怖じけづき飲むのを止めた。翌日「2日の参加者は8万人」と発表された▼全国物産展では山形の牛すじ汁をたべ、近所の乾物屋さんの出店に顔を出し沖縄のブースに。沖縄は熱い戦いを反映し元気が良い。知事選応援の記念タオルを買い、娘に頼まれた辺野古基地反対のたたかいのDVDを買った▼2日の志位委員長の記念演説、3日の不破社研所長の「科学の目」講座、八代亜紀さんの歌、それぞれすばらしかったのは言うまでもない。紙面の関係で、それらは赤旗をご覧いただくことにしよう▼今回、40名の参加者の中には20～30代の初参加者も少なくなかった。感想を求められ「あのたくさんの参加者にびっくりした。本当に世の中は変えられるんだと元気が出た」。若者のこうした感想にも「まだまだ頑張らねば」と励まされた。